

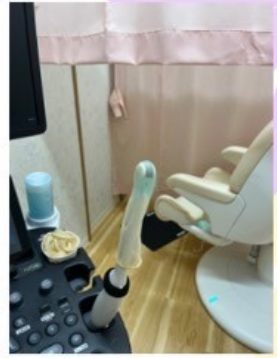
子宮・卵巣超音波検査

検査方法

経膈プローブという超音波機器を膈内に挿入し撮影をします。

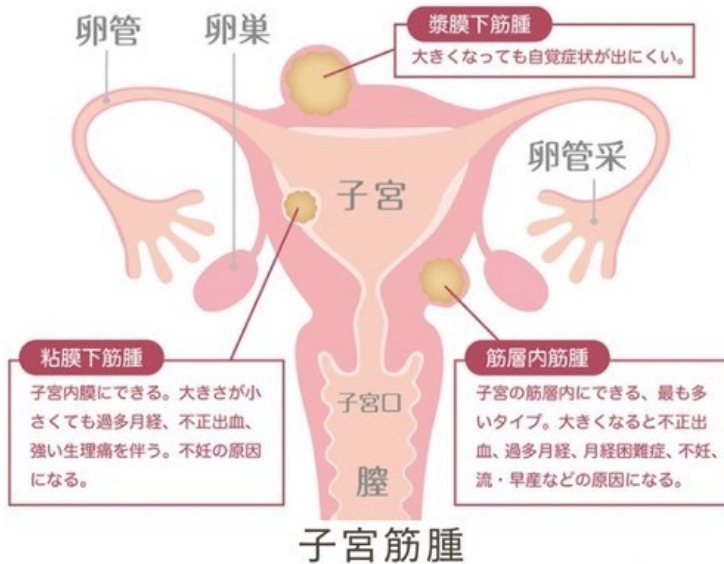
痛みはほとんどなく1~2分で終わります。

天井のモニターで画像を見ながら検査が受けられます。



超音波検査でわかること

不妊、流早産の原因となる病気がないか調べる事ができます。



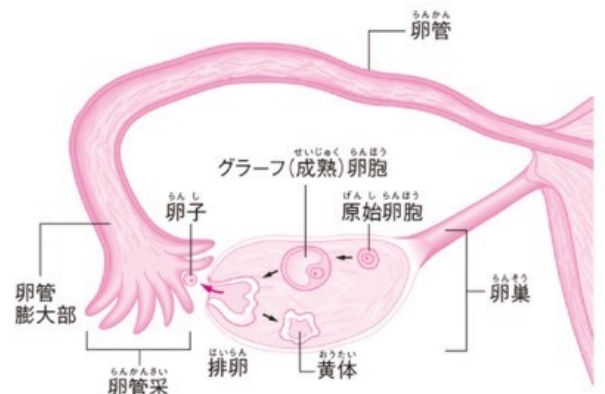
内膜症で不妊となる理由



- ① 排卵しない
・LUF(癒着による)
- ② 卵管周囲の癒着で卵の取り込みができない
- ③ 炎症による卵巣機能の低下
- ④ 子宮筋層内が炎症を起こし、着床障害となる(子宮腺筋症など)
- ⑤ 炎症細胞の影響で精子や卵子に障害を及ぼす

子宮内膜症

それ以外にも子宮内膜の厚みと卵胞の大きさを計測することで、正しく排卵がおこなわれているかを確認することができます。



卵胞発育モニタリング

異常が見つかったとき

MRI検査等で、さらに詳しく調べる事が可能です。